

全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年9月12日

予報期間：9月14日～10月13日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北日本では、期間のはじめは気温がかなり高くなる所があるでしょう。
東日本では、向こう1か月程度は気温の高い状態が続き、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。
西日本では、向こう1か月程度は気温の高い状態が続き、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
沖縄・奄美では、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本と東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報

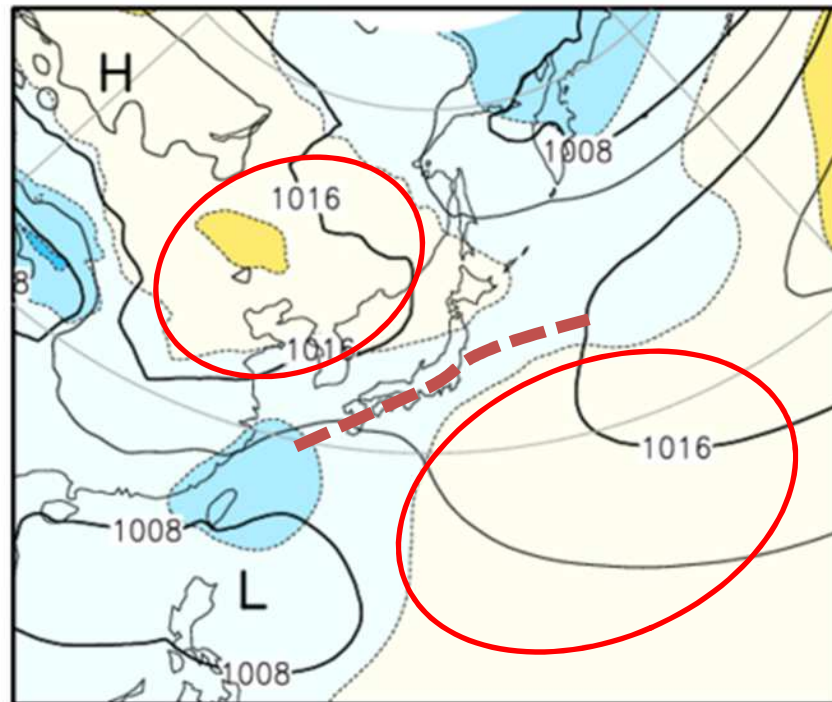
| 1か月 | | 気温(%) | 降水量(%) | 日照時間(%) | 降雪量(%) |
|-------|------|----------|----------|----------|--------|
| | | 低並高 | 少並多 | 少並多 | 少並多 |
| 北日本 | 日本海側 | 20:30:50 | 30:30:40 | 30:30:40 | |
| | 太平洋側 | | 30:40:30 | 30:30:40 | |
| 東日本 | 日本海側 | 10:20:70 | 20:40:40 | 40:30:30 | |
| | 太平洋側 | | 20:30:50 | 40:40:20 | |
| 西日本 | 日本海側 | 10:10:80 | 20:30:50 | 40:30:30 | |
| | 太平洋側 | | 20:30:50 | 40:40:20 | |
| 沖縄・奄美 | | 10:20:70 | 10:30:60 | 40:40:20 | |

| 気温 | 1週目(%) | 2週目(%) | 3~4週目(%) |
|-------|----------|----------|----------|
| | 低並高 | 低並高 | 低並高 |
| 北日本 | 10:30:60 | 40:40:20 | 20:30:50 |
| 東日本 | 10:10:80 | 10:40:50 | 10:20:70 |
| 西日本 | 10:10:80 | 10:30:60 | 10:20:70 |
| 沖縄・奄美 | 10:30:60 | 10:30:60 | 10:20:70 |

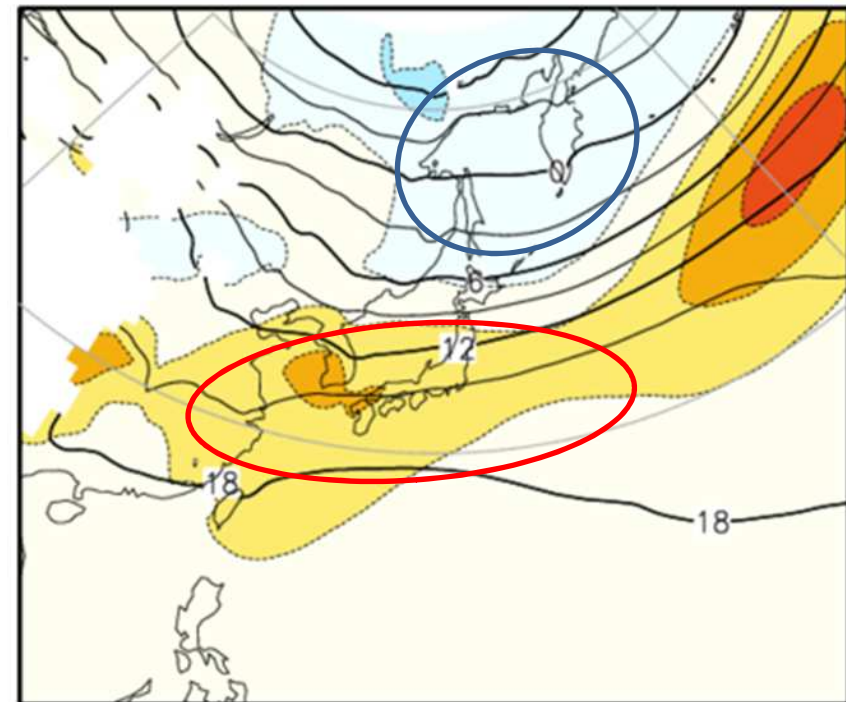
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため全国的に高いでしょう。特に、期間のはじめは北・東日本で、期間の前半は西日本と沖縄・奄美で、気温がかなり高くなる所が多いでしょう。北日本の2週目の気温は、寒気の影響で平年並か低いでしょう。
- ・低気圧、秋雨前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、東日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美では多く、東日本日本海側では平年並か多いでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では平年並か少ないでしょう。

地上気圧(1か月)



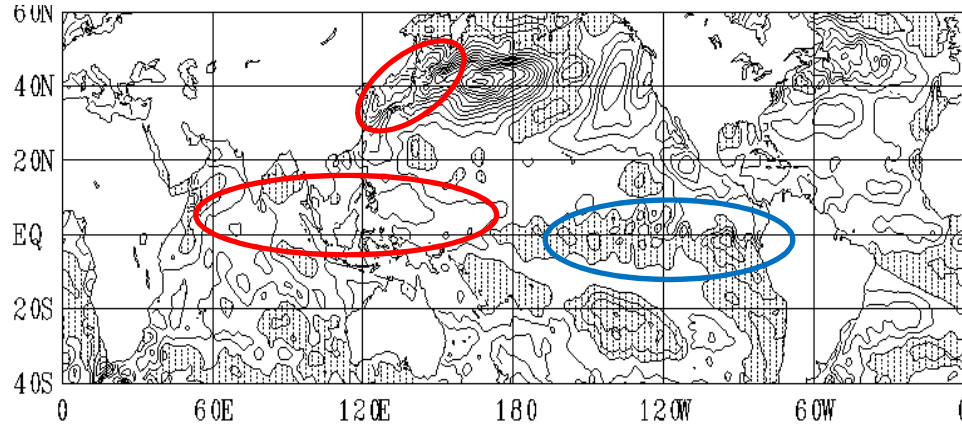
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の地上気圧(左図)は、太平洋高気圧が日本の南で強く、華北付近には高気圧がある一方、その間の本州付近は気圧の谷で、東・西日本を中心に低気圧や秋雨前線の影響を受けやすい時期があるでしょう。また、沖縄・奄美付近では気圧が低く、熱帯じょう乱の影響を受けやすい時期があるでしょう。

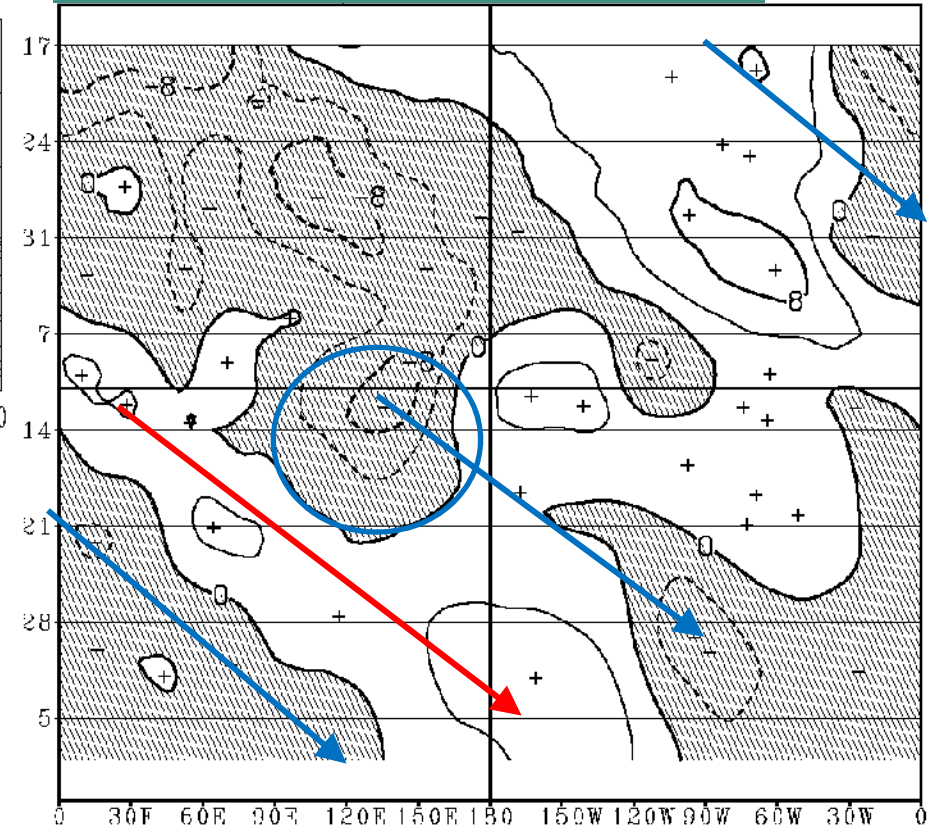
上空約1500mの気温(右図)は、西日本を中心に全国的に平年より高く、暖かい空気に覆われやすいでしょう。一方、オホーツク海付近では平年より低く、北日本では寒気の影響を受ける時期があるでしょう。

SST偏差



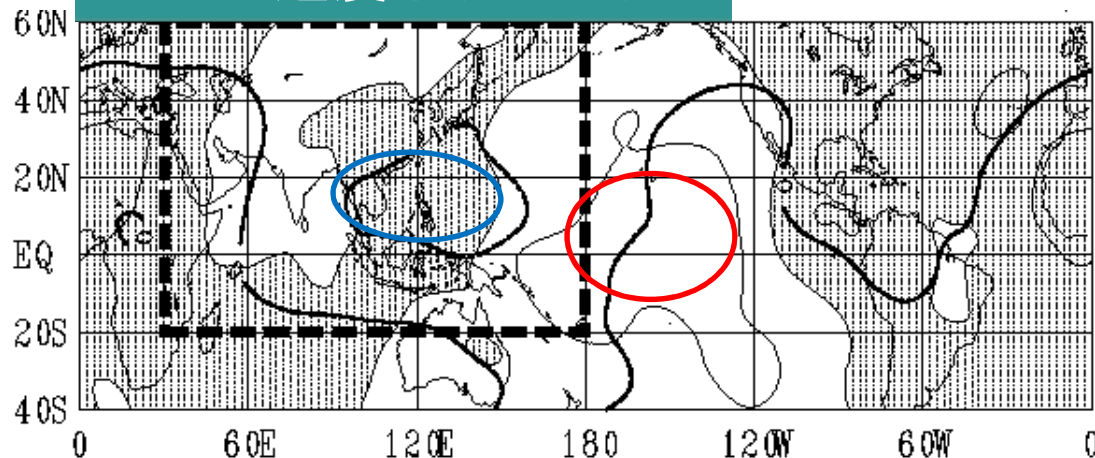
熱帯域では、インド洋から太平洋西部にかけて正偏差。東部太平洋赤道域では負偏差。これらはラニーニャ現象の特徴が現れ始めていることを示している。日本周辺海域で正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



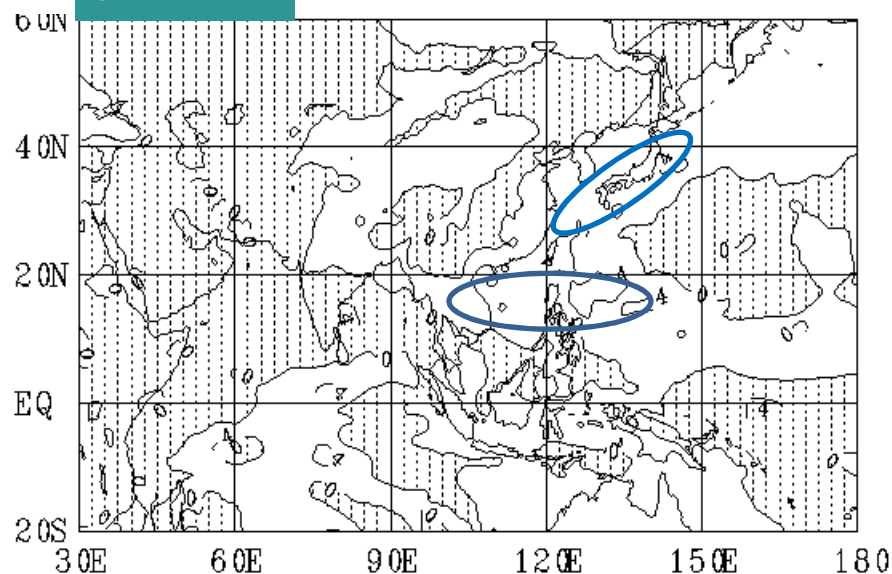
実況では、インドネシア付近で対流活発。予測では対流不活発域がインド洋から東進、予報後半には、中部太平洋で対流活動不活発、インド洋で活発化。季節内変動に加え、ラニーニャ現象的なSST分布の影響を示唆。

200hPa速度ポテンシャル



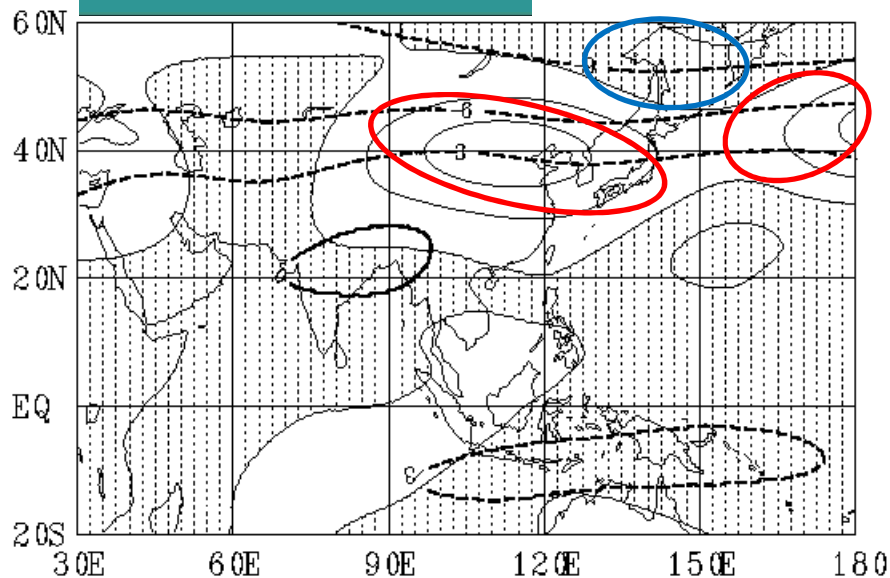
インドシナ半島付近からフィリピン東方海上にかけて上層発散偏差。中部太平洋で上層収束偏差。夏季の熱帯季節内変動とラニーニャ現象的なSSTの影響を示唆。

降水量



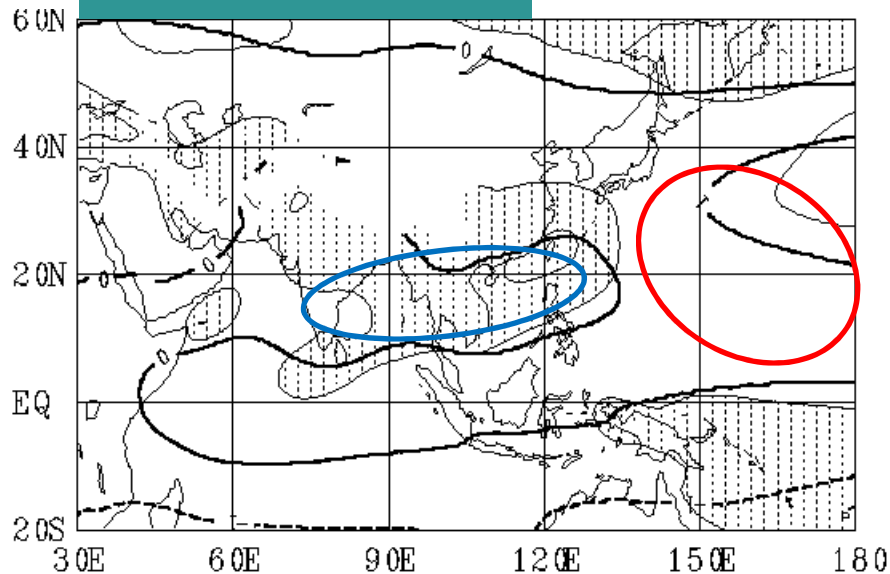
インドシナ半島付近からフィリピンの東にかけて多雨偏差で、北半球夏季の熱帯季節内振動とSSTの影響を示唆。日本付近も多雨偏差。

200hPa流線関数



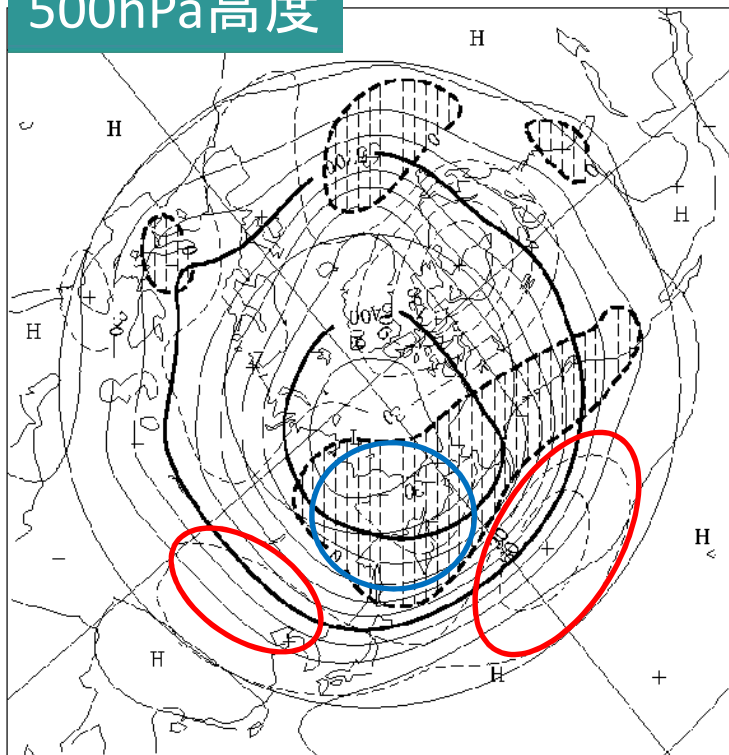
華北付近とアリューシヤンの南で高気圧性循環偏差、オホーツク海付近に低気圧性循環偏差と波列状の偏差パターンが見られる。

850hPa流線関数



ベンガル湾から東シナ海にかけて低気圧性循環偏差、日本の南東には高気圧性循環偏差。インドシナ半島付近からフィリピン北東海上にかけての活発な対流活動の影響がある。

500hPa高度

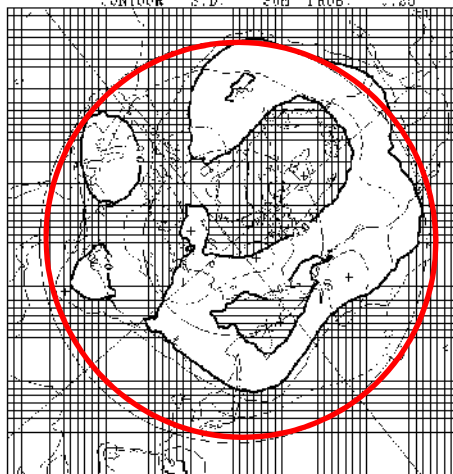
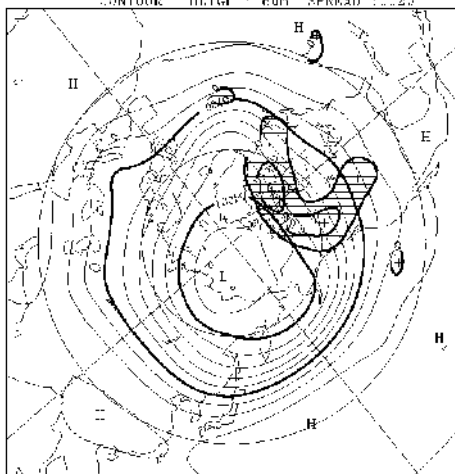


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.25

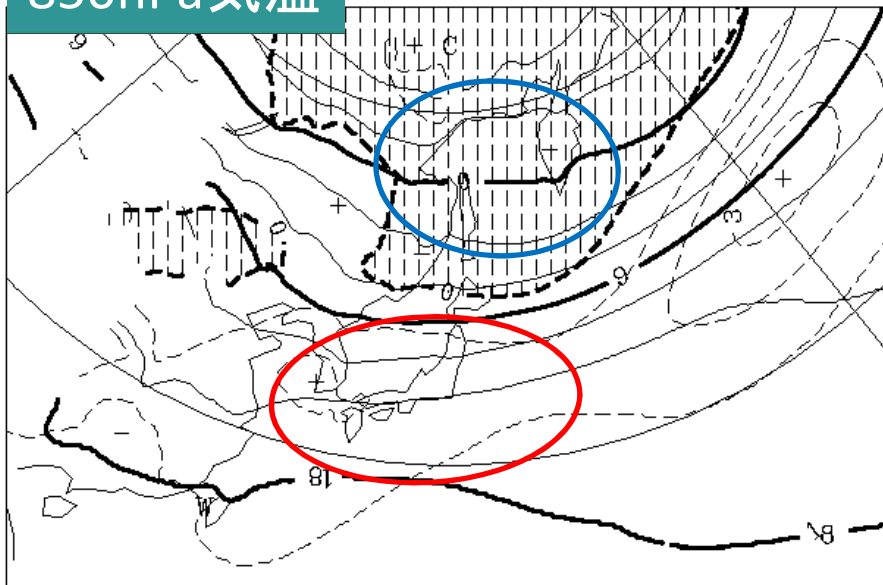
CONTOUR S.D.: 30m PROB.: 0.25



500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、日本を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

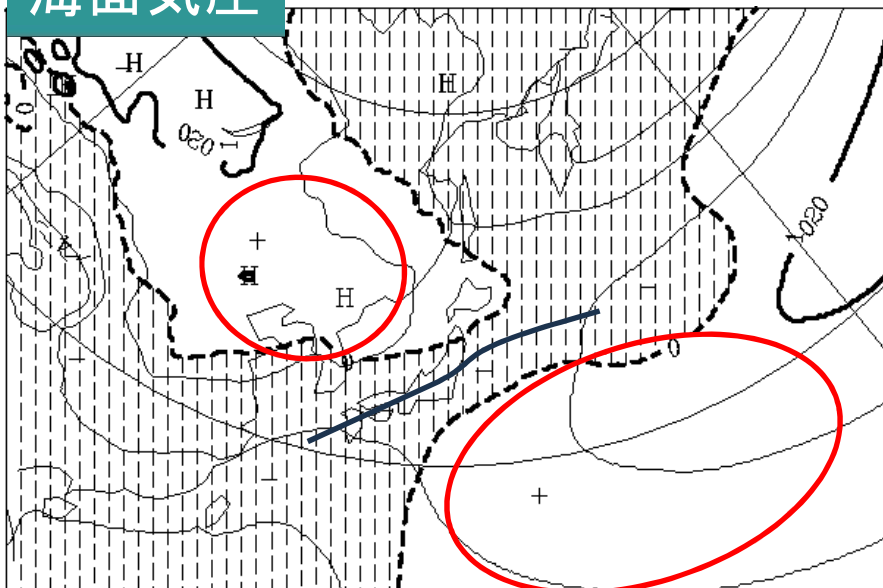
その中で、華北付近と日本のはるか東には特に強い正偏差域がある一方、オホーツク海付近に負偏差域がある。日本付近では偏西風が平年より北偏して流れ、全国的に暖かい空気に覆われやすいが、北日本はオホーツク海付近の負偏差域の影響を受ける時期がある。

850hPa気温



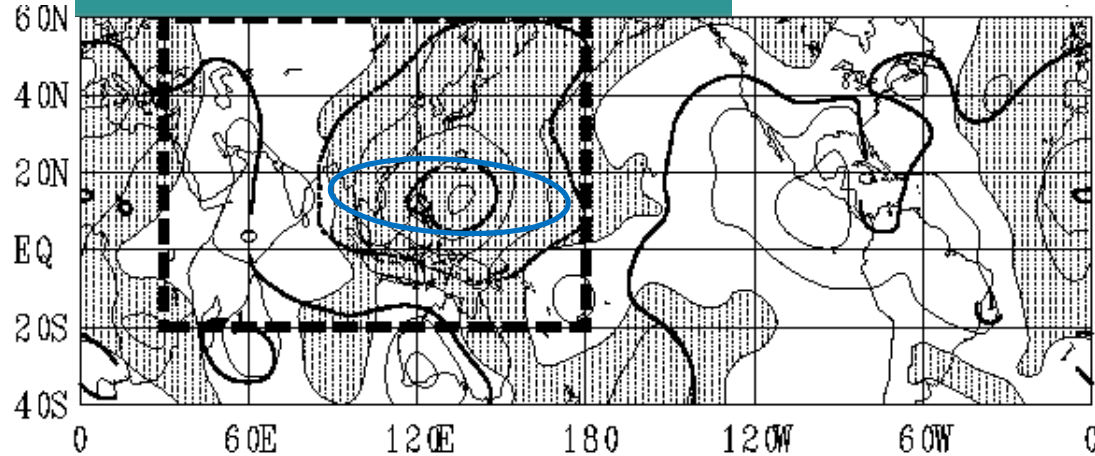
西日本を中心に全国的に平年より高く、暖かい空気に覆われやすい。一方、オホーツク海付近では平年より低く、北日本では寒気の影響を受ける時期がある。

海面気圧



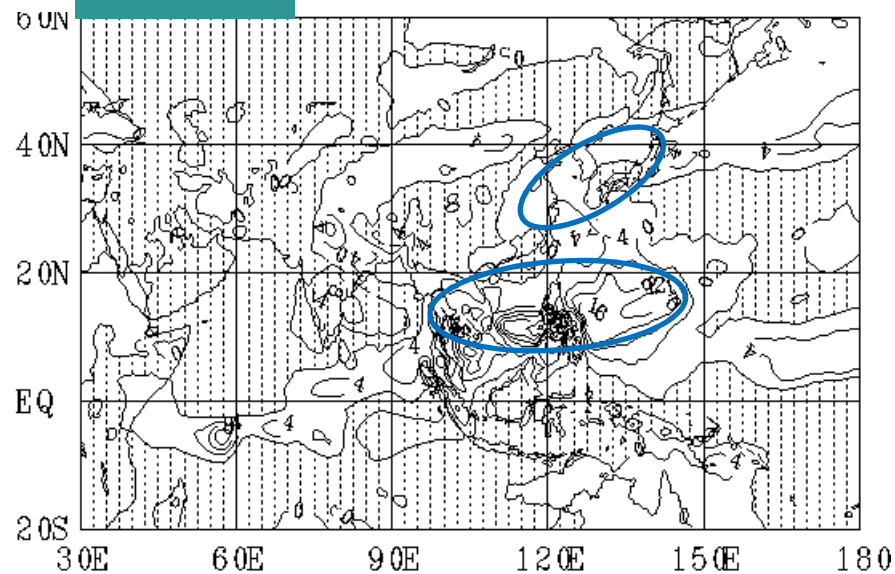
太平洋高気圧が日本の南で強く、華北付近には高気圧がある一方、その間の本州付近は気圧の谷で、東・西日本を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。また、沖縄・奄美付近では気圧が低く、熱帯じょう乱の影響を受けやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



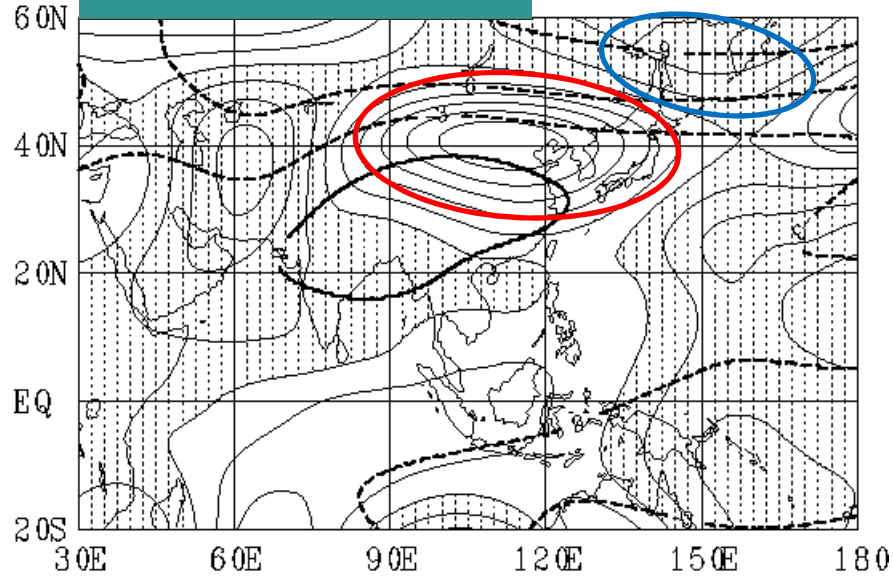
インドシナ半島からフィリピンの東方海上にかけてを中心に上層発散偏差。北半球夏季の熱帯季節内変動の位相を反映。

降水量



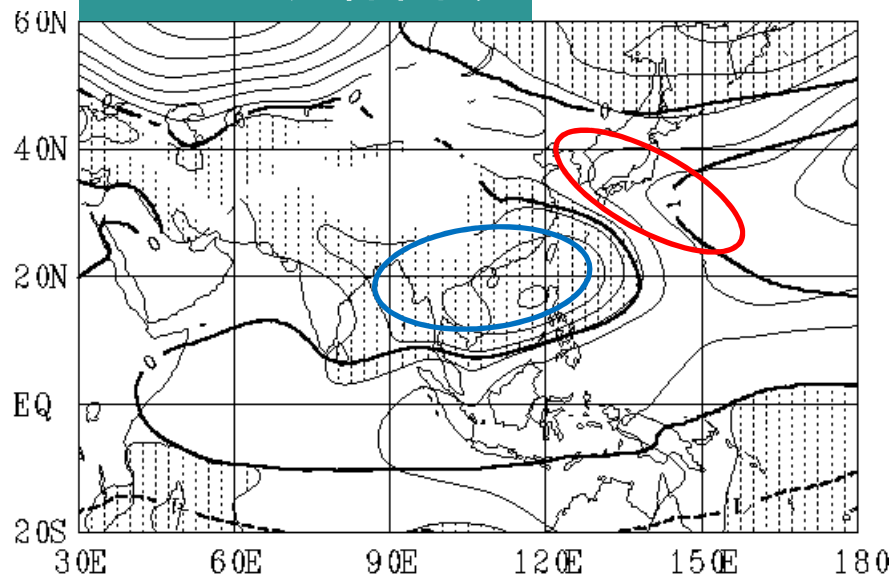
インドシナ半島付近からフィリピンの東にかけて顕著な多雨偏差。日本付近も多雨偏差。

200hPa流線関数



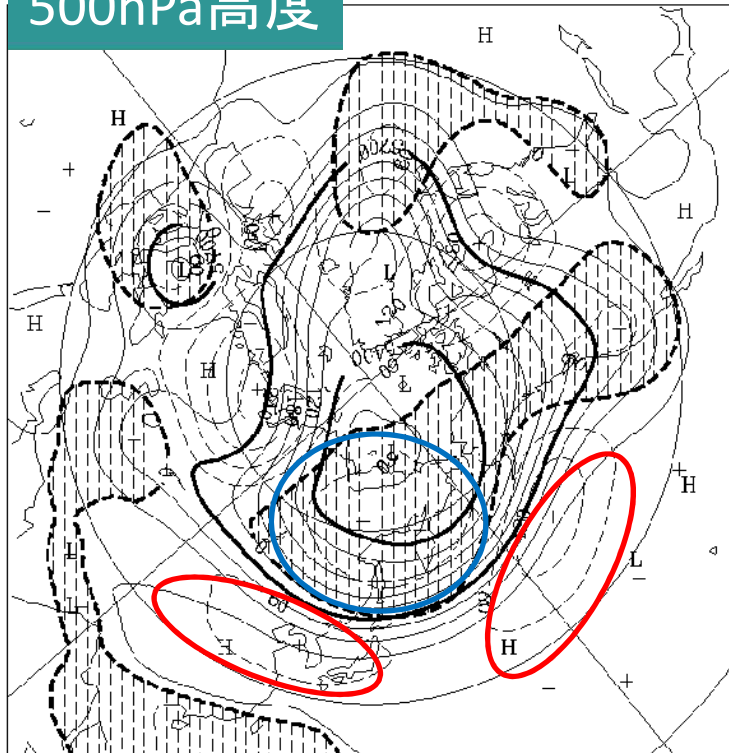
亜熱帯ジェット気流の蛇行が明瞭で、華北付近に強い高気圧性循環偏差でリッジ、オホーツク海付近にトラフ。

850hPa流線関数



インドシナ半島からフィリピン北東海上にかけて低気圧性循環偏差、西日本付近を中心に高気圧性循環偏差で、熱帯の対流活動の影響を示唆(PJパターン)。朝鮮半島から北日本にも高気圧性循環偏差が伸び、上層のリッジの影響を示唆。

500hPa高度

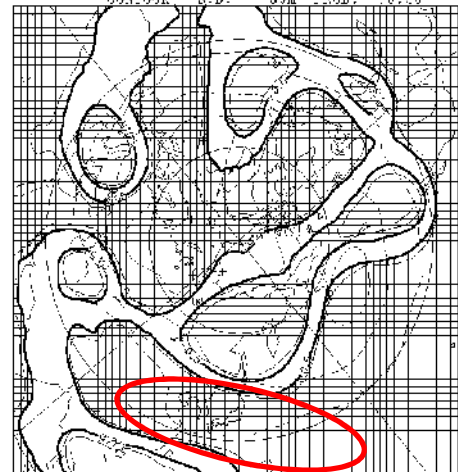
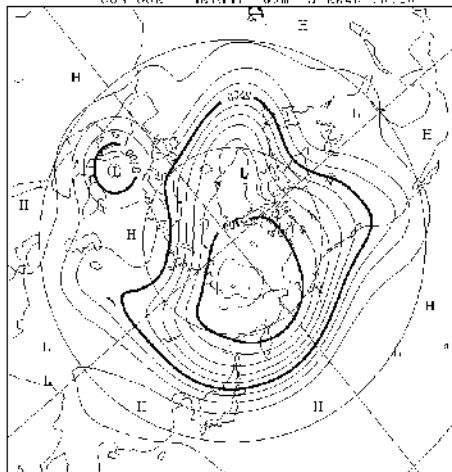


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

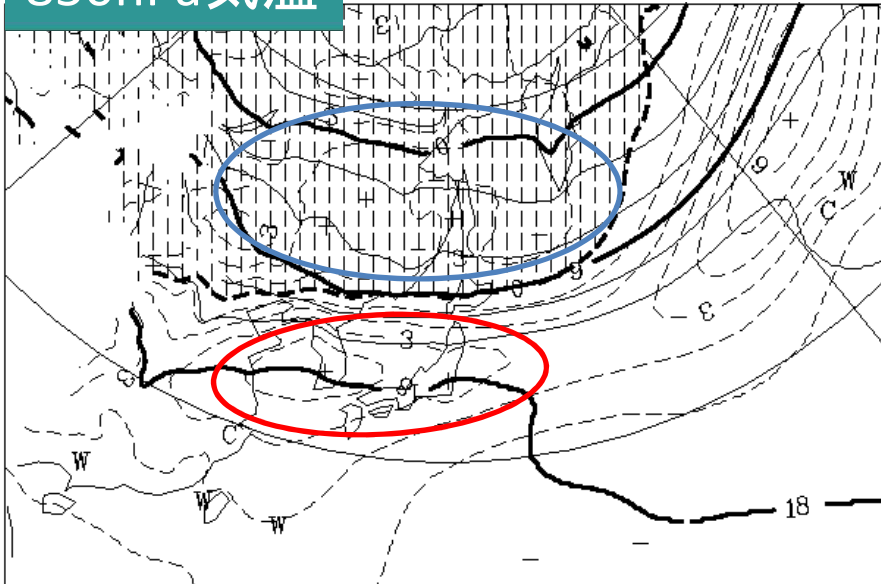
CONTOUR HEIGHT: 33m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



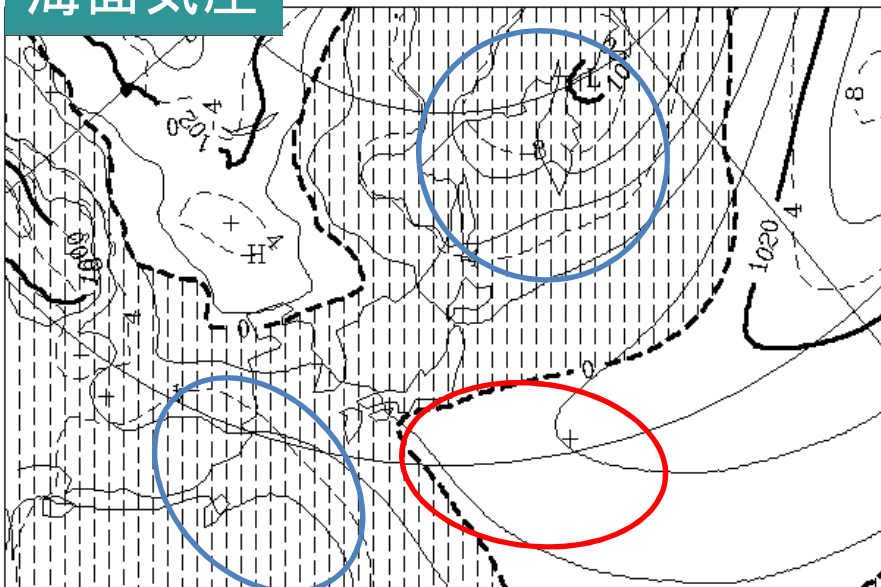
500hPa高度では、日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域にほぼ覆われる。黄海付近と日本のはるか東に強い正偏差域がある一方、オホーツク海付近に強い負偏差域がある。

850hPa気温



日本付近は、西日本中心に、ほぼ全国的に正偏差域に覆われる。一方、日本の北は広く負偏差域で、北日本では気温の南北の傾きが大きい。

海面気圧



太平洋高気圧が日本の南で強い。一方、カムチャツカ半島付近には低気圧があり、北日本は低気圧や前線の影響を受ける時期がある。また、沖縄・奄美付近では気圧が低く、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい。

想定される天候

北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

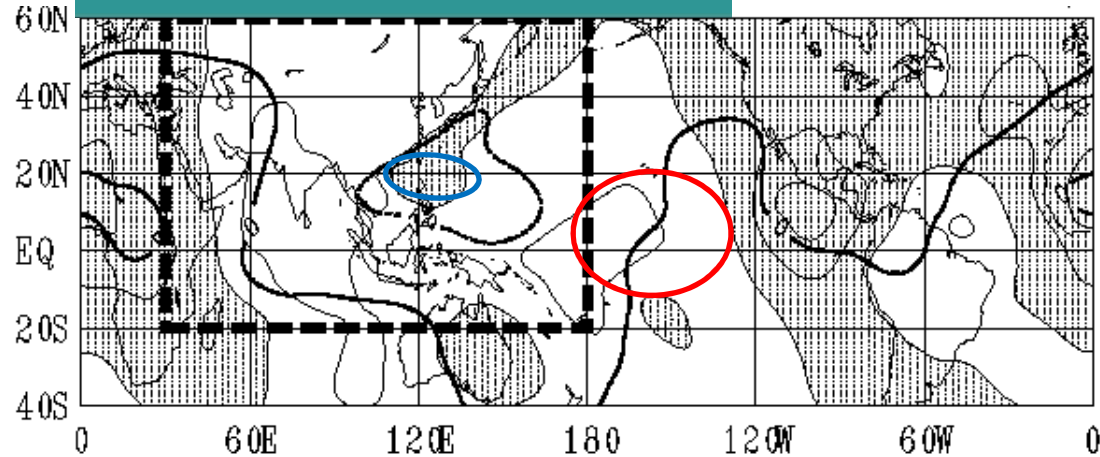
<気温>

・暖かい空気に覆われやすいため、全国的に気温が高く、気温がかなり高くなる所が多い。

<天候>

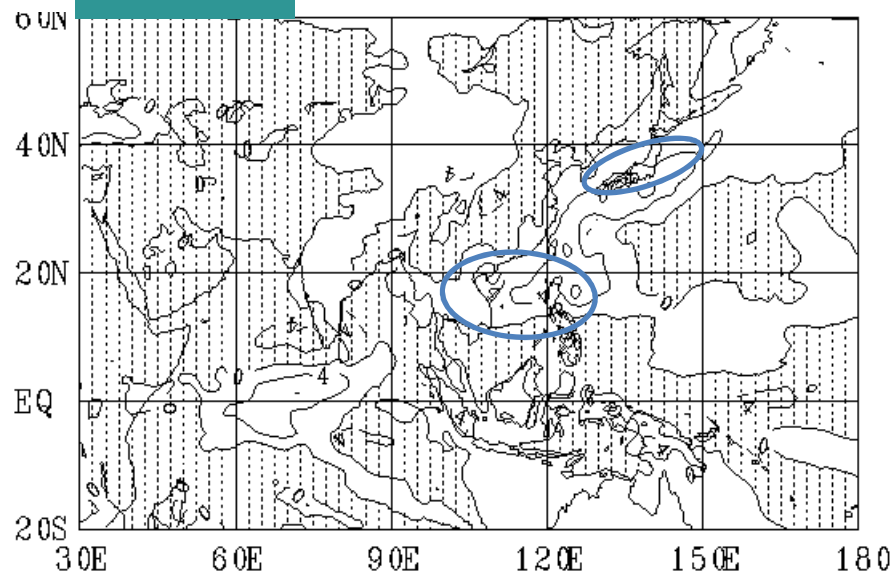
- ・西日本日本海側では高気圧に覆われやすいため、やや少雨やや多照。
- ・沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響で、多雨寡照。
- ・北日本日本海側では低気圧や前線の影響で日本海側やや多雨並照。
- ・北日本太平洋側、東日本、西日本太平洋側では並雨並照。

200hPa速度ポテンシャル



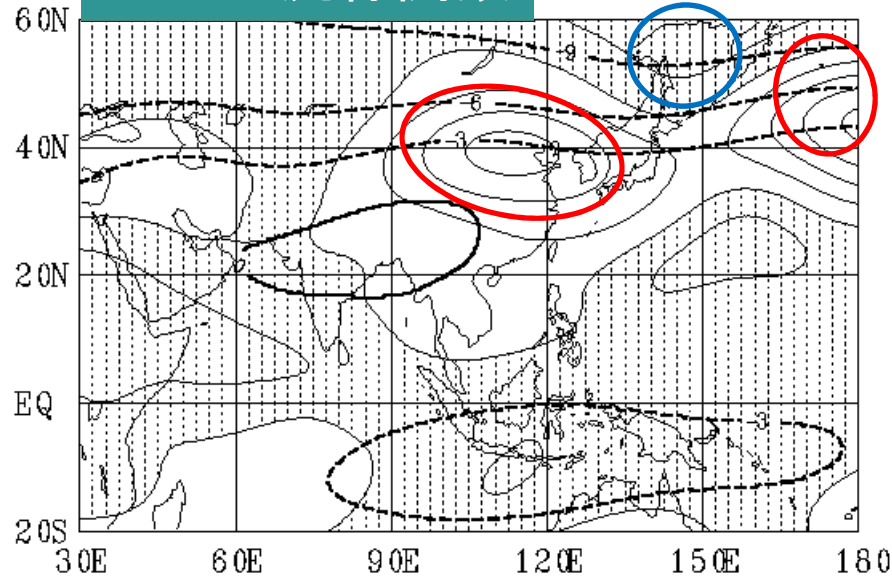
フィリピン付近で上層発散偏差。中部太平洋で上層収束偏差。夏季の熱帯季節内変動の位相とSSTを反映。

降水量



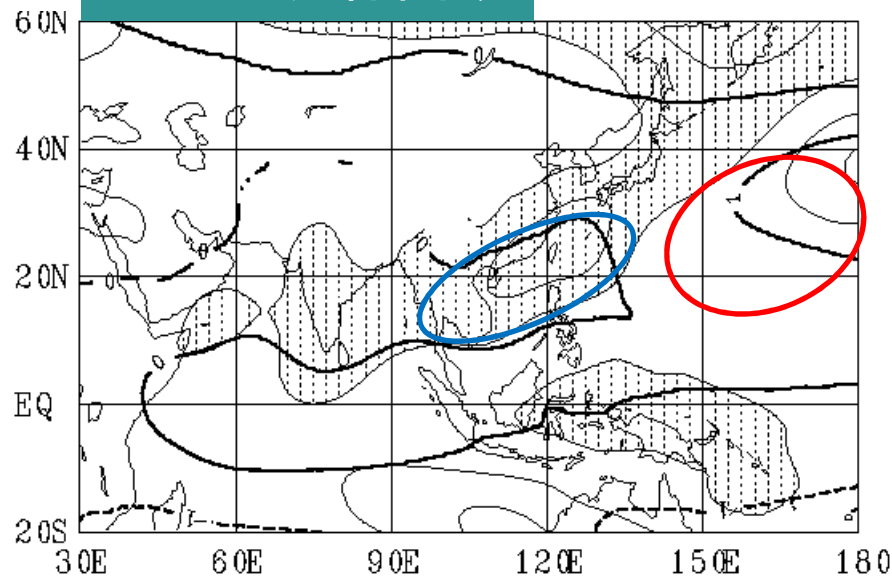
インドシナ半島からフィリピン付近にかけて多雨偏差。日本付近も多雨偏差。

200hPa流線関数



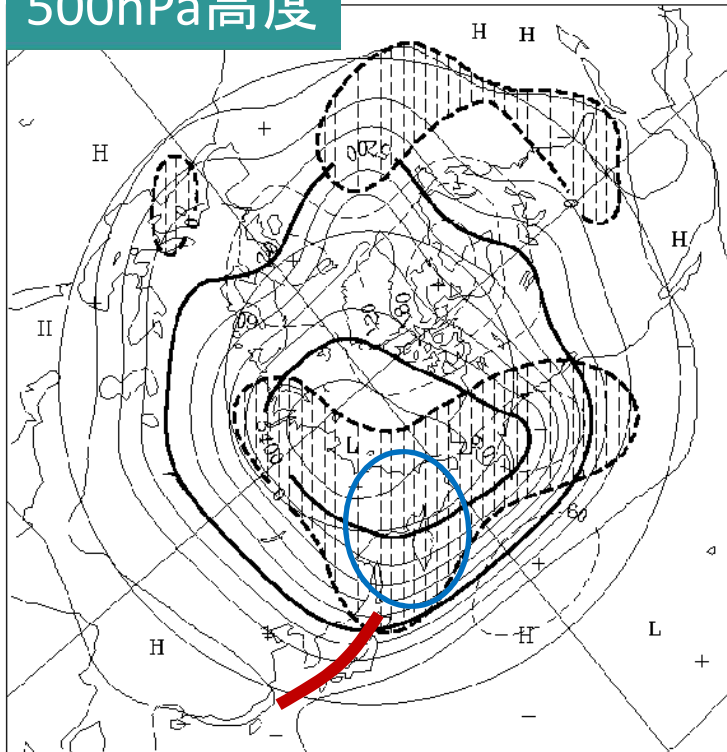
華北付近とアリューシヤンの南に高気圧性循環偏差、オホーツク海付近に低気圧性循環偏差といった波列状の偏差パターン。1週目に比べて華北付近の高気圧性循環偏差が弱まる一方、アリューシヤンの南の高気圧性循環偏差が強まり、ロスビー波束伝播を示す。

850hPa流線関数



南シナ海から東シナ海にかけて低気圧性循環偏差、日本の南東には高気圧性循環偏差で、対流活動の影響がある。日本付近には南から暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

500hPa高度

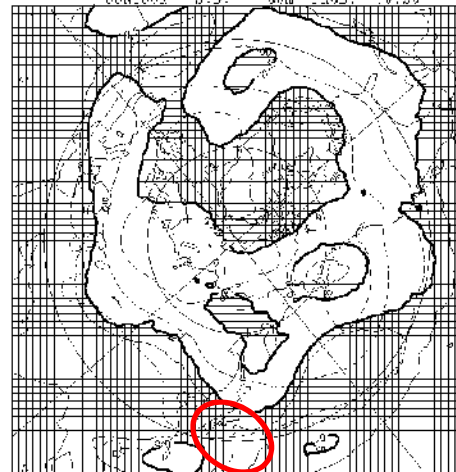
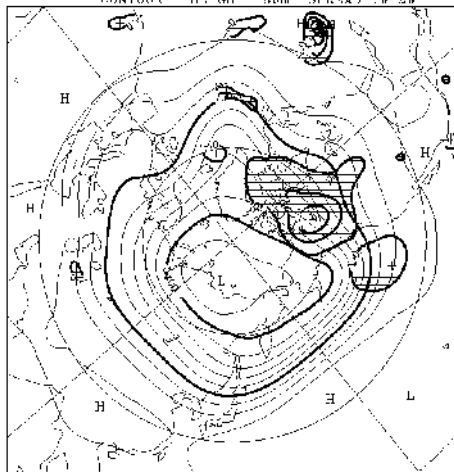


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. BIAS > 50% AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 80m SPREAD: 0.20

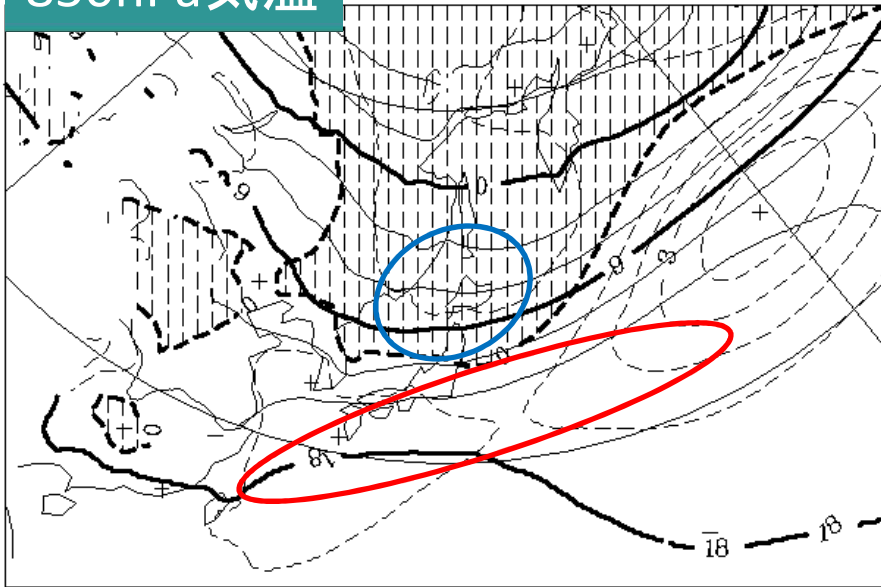
CONTOUR S.D.: 30% 20% 10% 0.25



500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。しかし、日本付近では、北日本と沖縄の南では50%以下で、北海道にはオホーツク海から伸びる負偏差域がかかる。

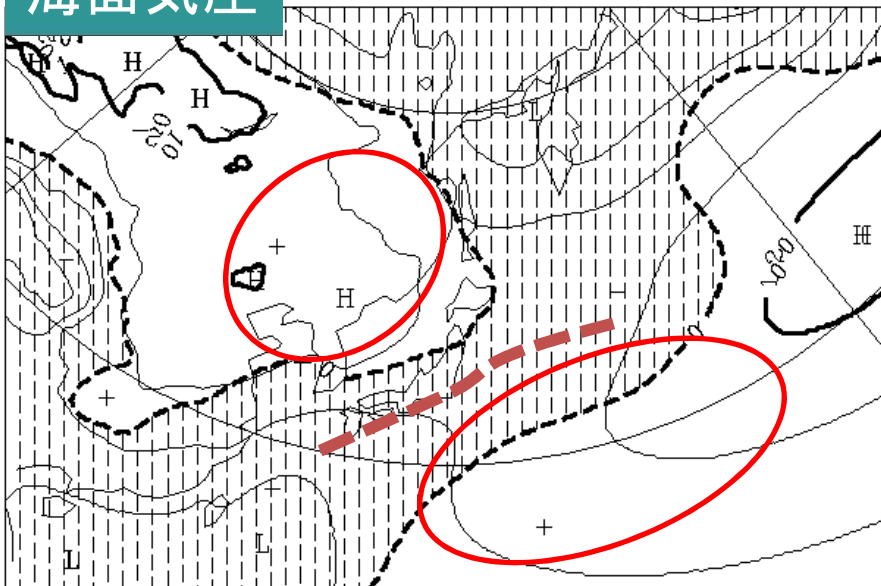
日本海にトラフがあり、本州付近は西谷傾向。

850hPa気温



日本付近は、北日本は低温偏差、東日本以南は広く高温偏差で、南北の温度の傾きが大きい。

海面気圧



太平洋高気圧が日本の南で強く、中国東北区付近には高気圧がある一方、その間の東・西日本付近は気圧の谷。南北の温度の傾きが強く、太平洋高気圧の縁辺を回り湿った空気が流入しやすいため、東・西日本太平洋側を中心に秋雨前線の活動が活発となりやすい。また、沖縄・奄美付近では気圧が低く、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

想定される天候

北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
東・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、秋雨前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

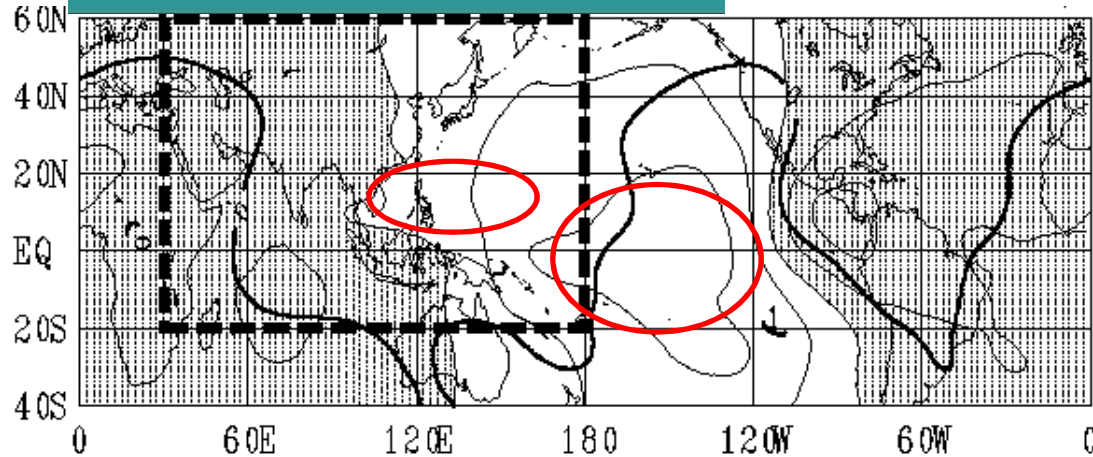
<気温>

- ・一時、寒気の影響を受けるため、北日本では平年並か低い。
- ・暖かい空気に覆われやすいため、東日本では高く、西日本と沖縄・奄美ではかなり高い所が多い。

<天候>

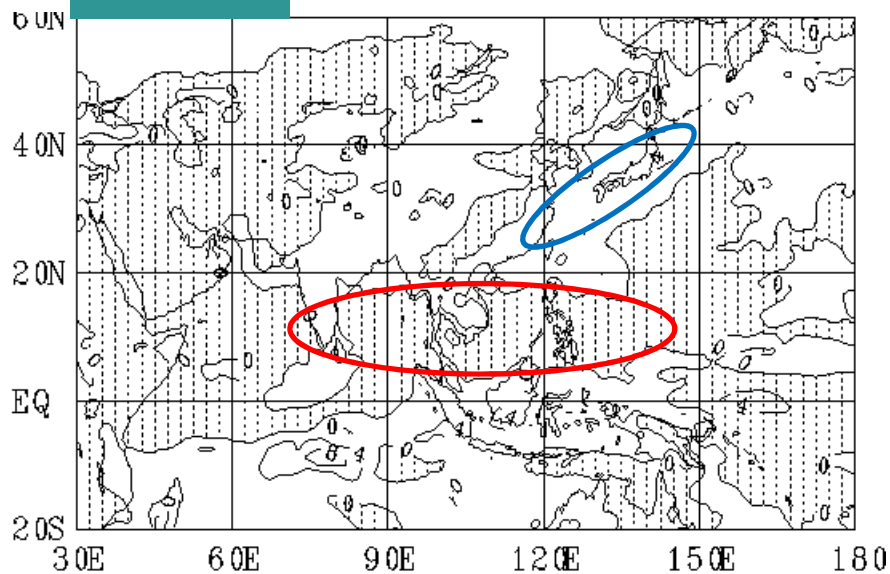
- ・北日本では、並雨並照。
- ・東・西日本では、前線や湿った空気の影響を受けやすく、多雨傾向寡照傾向で、その傾向は太平洋側の方が明瞭。
- ・沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい時期があり多雨傾向寡照傾向。

200hPa速度ポテンシャル



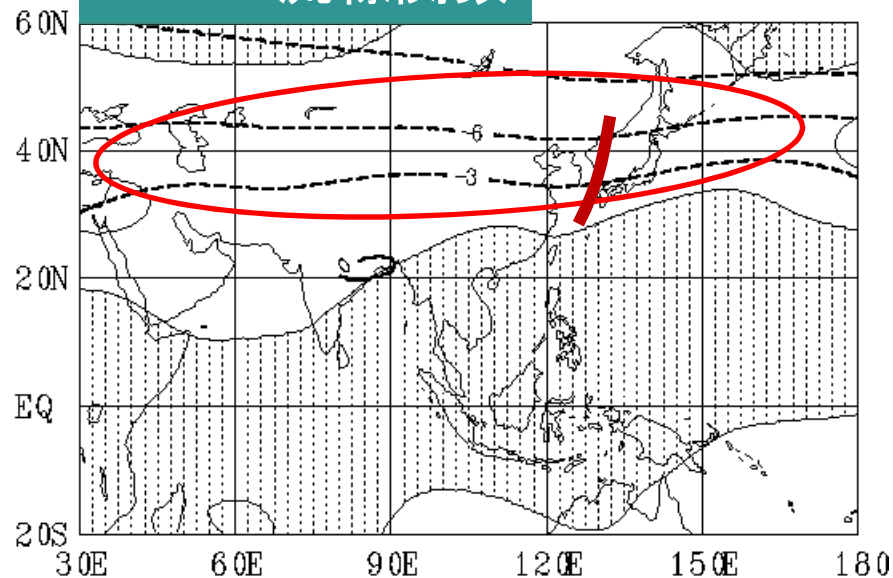
中部太平洋で上層収束偏差でSSTを反映。インドシナ半島からフィリピン東方海上にかけて上層収束偏差で夏季熱帯季節内変動の影響を示唆。

降水量



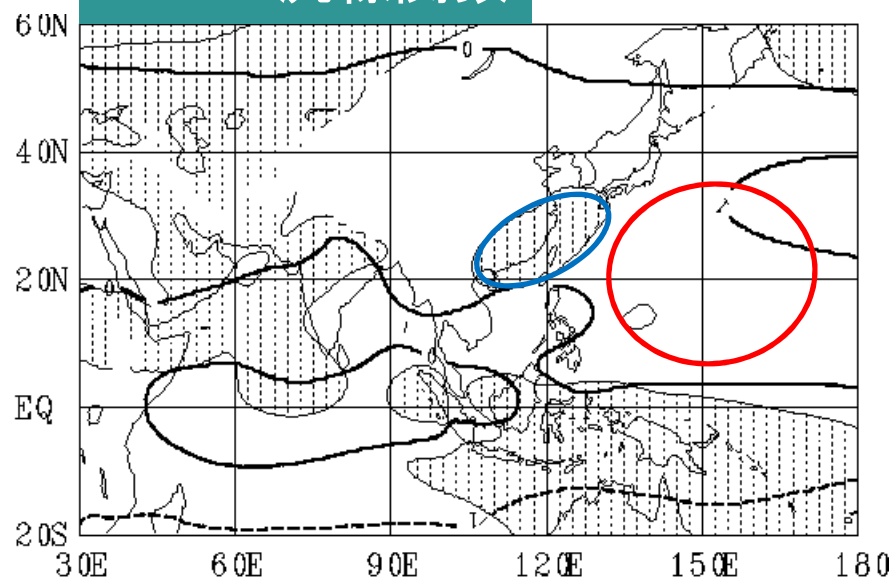
ベンガル湾付近からフィリピン東方海上にかけて少雨偏差。日本付近はやや多雨偏差。

200hPa流線関数



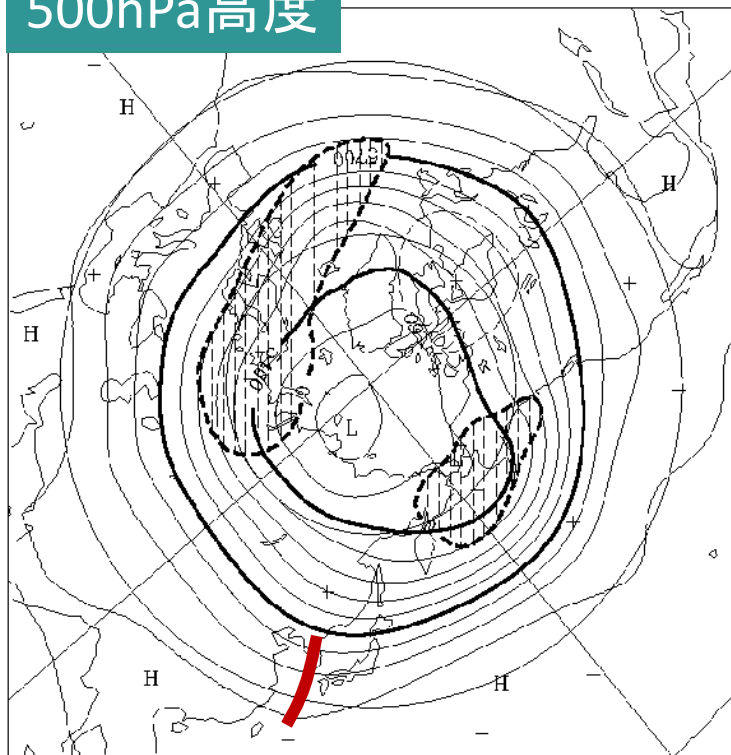
ユーラシア大陸から日付変更線にかけての中緯度帯は帯状に正偏差でジェット気流は北に偏って流れる。日本付近は西谷傾向。

850hPa流線関数

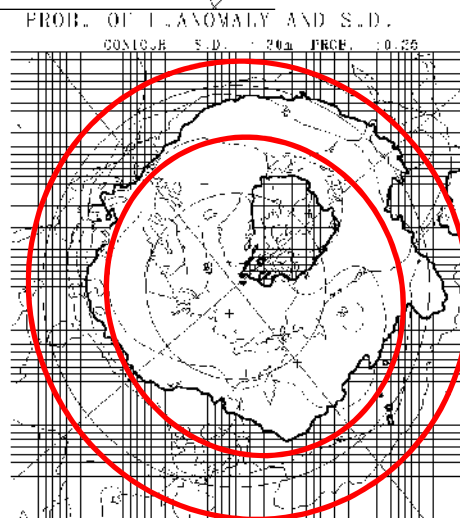
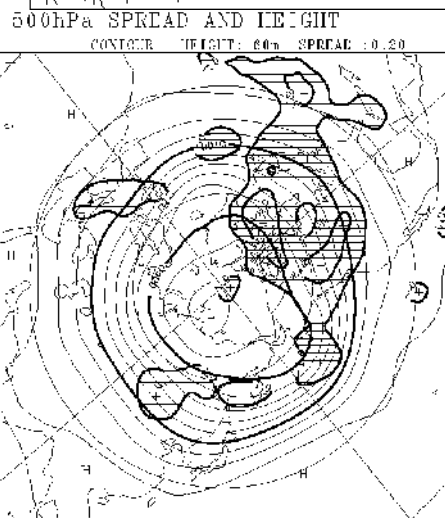


華南から東シナ海付近にかけて低気圧性循環偏差だが、2週目よりは弱まる。日本の南から東にかけて高気圧性循環偏差。

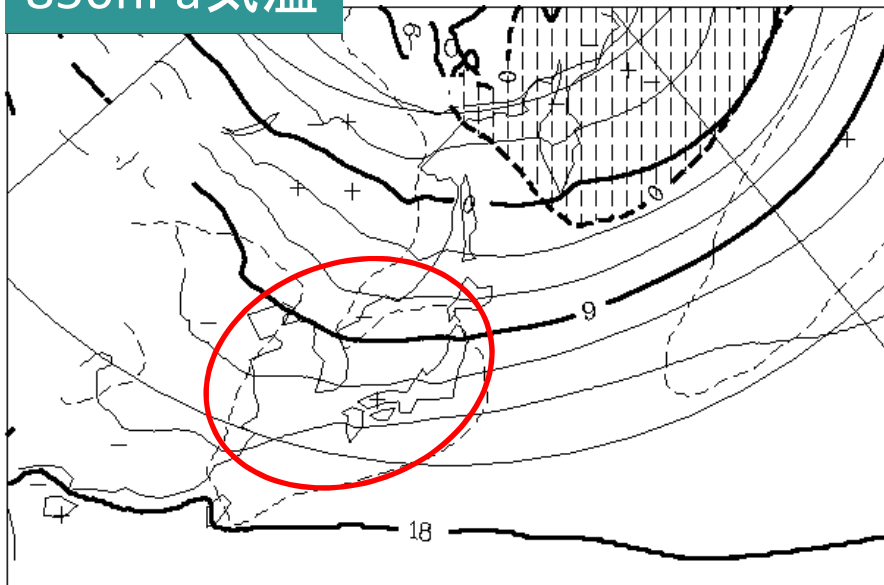
500hPa高度



500hPa高度では、熱帯から中緯度にかけて、日本付近を含み帯状に広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。朝鮮半島から東シナ海付近にトラフがあって、東・西日本付近は西谷。

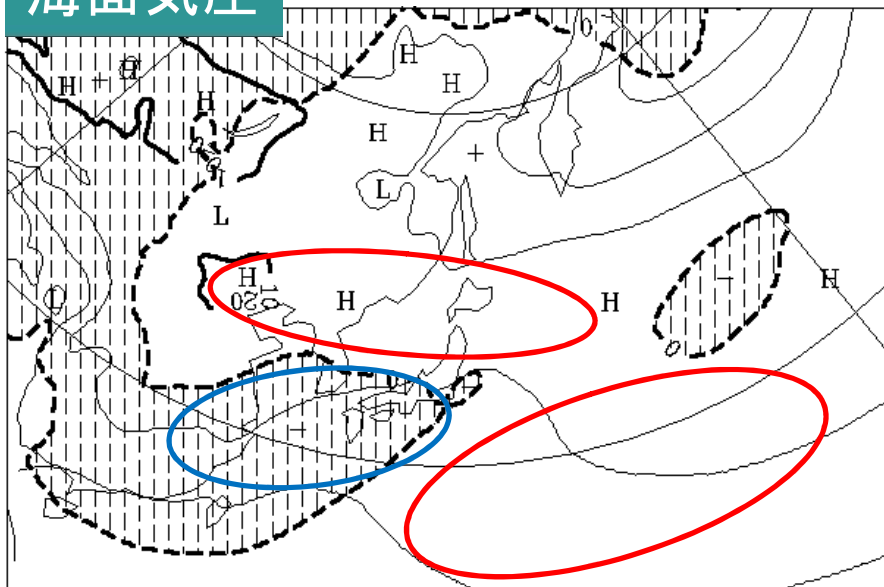


850hPa気温



日本付近は、高温偏差域に覆われ、暖かい空気に覆われやすい。

海面気圧



太平洋高気圧は日本の南東で強い一方、東シナ海付近から西日本は負偏差で、本州南岸に気圧の谷がある。一方、北日本付近は帯状の高気圧に覆われる。北日本では高気圧に覆われやすい時期がある一方、東・西日本では太平洋側を中心に秋雨前線の影響を受けやすい時期がある。

想定される天候

北日本と東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、秋雨前線の影響を受けやすい時期があるため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

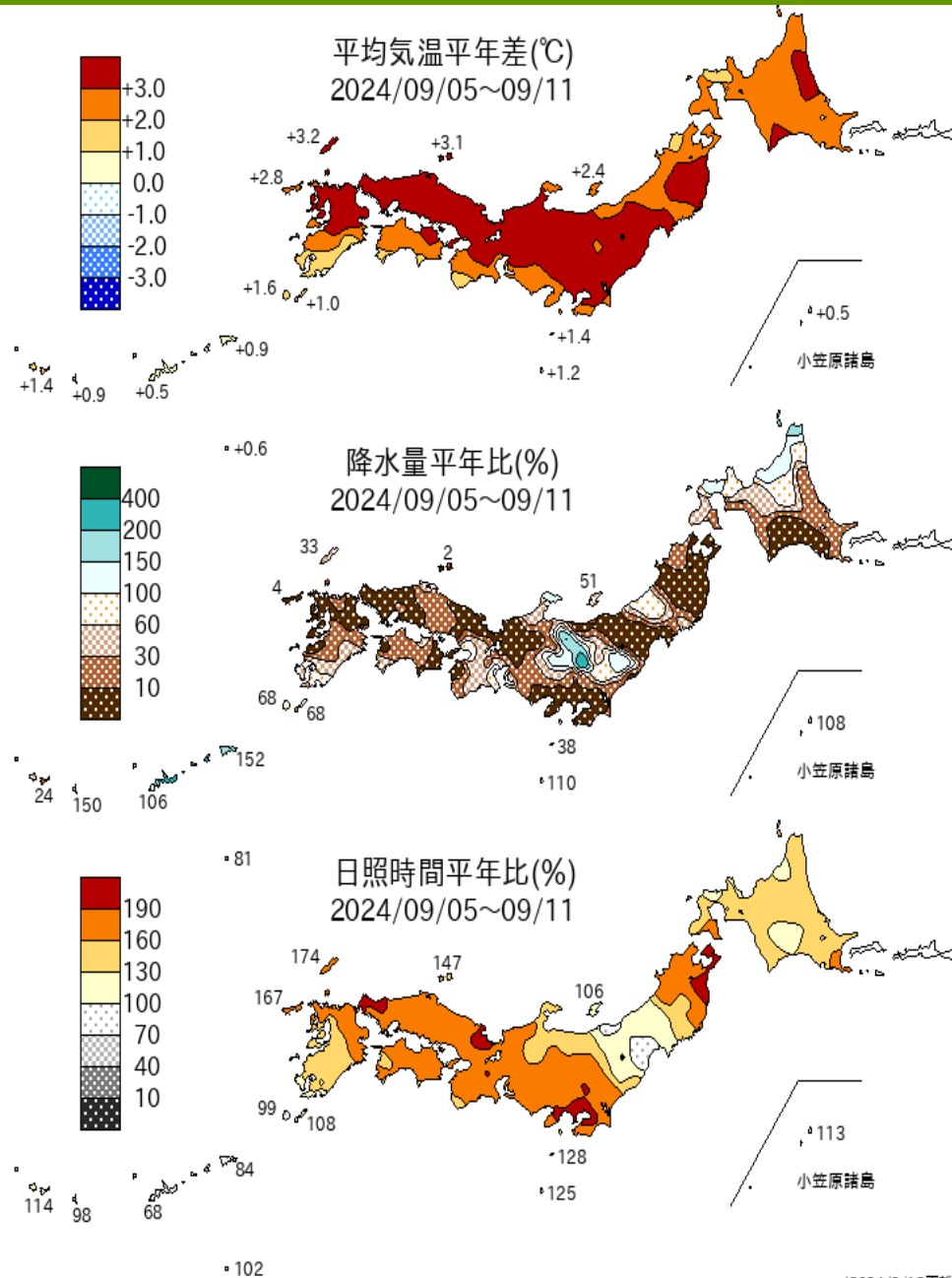
<気温>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、全国的に気温が高くなる見込み。

<天候>

- ・高気圧に覆われやすい時期があるため、北日本では並雨でやや多照。
- ・秋雨前線の影響を受けやすい時期があるため、東・西日本太平洋側では、多雨傾向寡照傾向。西日本日本海側ではやや多雨やや寡照。
- ・東日本日本海側と沖縄・奄美では、並雨並照。

最近1週間の天候経過



最近1週間(9月5日~9月11日)は、北・東・西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、降水量が平年を下回り、日照時間が平年を大きく上回った所が多くなりました。一方、前線や湿った空気の影響で、関東甲信地方を中心に局地的な大雨や雷雨となりました。沖縄・奄美では、熱帯低気圧や湿った空気の影響で、大雨となった所があり、降水量が平年を上回りました。

気温は、暖かい空気に覆われたため全国的に平年を上回り、西日本を中心に猛暑日となった所があり、また、日最高気温の9月の記録を更新した所もありました。